

アメリカコハクチョウとコハクチョウのつがいおよび家族群の連続越冬記録

— 第Ⅱ報 —

村瀬美江¹

岩手県北上市に6シーズン連続渡来している通称「クロチャン」と呼ばれるアメリカコハクチョウと、そのつがいである通称「カアサン」と呼ばれるコハクチョウが3年間連続して毎年幼鳥をともなって同一地点に渡来し越冬していること、およびその家族群の渡来状況を前報で報告した(村瀬 1990)。本報では「クロチャン」家族群がさらに記録を伸ばしつつある状況と、この家族群とは別個体であるアメリカコハクチョウの通称「チビクロ」の渡来状況を報告する。個体同定法ならびに観察場所については、前報を参照されたい。

1990年10月～1991年5月の「クロチャン」家族群渡来の状況

初渡来から1991年5月までの「クロチャン」家族群の渡来状況を表1にまとめた。

1990年10月29日に「クロチャン」と「カアサン」は3羽の幼鳥と前年の幼鳥「ゲン」とをともなって、計6羽で新堤に飛来した(図1)。「クロチャン」が前年度の幼鳥とともに飛来したのは今回がはじめてであった。今回の亜種間雑種の幼鳥3羽はそれぞれ「ニイチャン」、「マユ」、「ピンクキー」と命名された。「クロチャン」は6シーズン、「カアサン」は5シーズン、「ゲン」は2シーズンの連続飛来となった。

ついで12月7日に「クロチャン」の最初の子「ヤマ」が新堤に飛来し、4シーズン連続して渡来した。さらに12月13日には「クロチャン」の2年目に連れてきた幼鳥「ナガレ」が「チビクロ」とともに北上川に飛来し、最後に12月15日、同じく「クロチャン」の2年目に連れてきた幼鳥「ニタ」が新堤に飛来した。「ナガレ」、「ニタ」はともに3シーズン連続の渡来となった。以上で昨シーズンに北上で越冬した「クロチャン」とその家族群7羽のうち、今シーズン再渡来したのは6羽で、「ナガレ」、「ニタ」と同年子の「キボッチ」の再渡来だけが確認されなかったが、今シーズン新たに3羽の幼鳥が加わったので、「クロチャン」家族群は9羽となった。

表1に記載のごとく「ニタ」は1991年3月8日に単独で飛去し、「ナガレ」は4月5日に「チビクロ」とつれだつて飛去した。最後に残った「クロチャン」、「カアサン」、「ヤマ」、「ゲン」と3羽の幼鳥「ニイチャン」、「マユ」、「ピンクキー」の7羽は、4月12日早朝に新堤からいっしょに飛去した。

「チビクロ」の渡来状況

「チビクロ」は1989年1月25日北上川で初認された亜成鳥のアメリカコハクチョウで、体形は平均的なコハクチョウなみで「クロチャン」よりひとまわり小さかった。嘴峰パターンは「クロチャン」同様に細いすじ状の黄色斑が左右にあり、体形と行動パターンから雌と推定された。このシーズンは4月5日に「クロチャン」家族群とともに飛去した。翌1989年11月～1990年3月まで、福島県表郷村

1991年8月20日受理

1. 〒024 北上市常盤台2-2-17

表1. 「クロチャン」家族群の渡来状況 (1991年5月現在).

Table 1. Wintering records of the "Kuro-chan" family.

期間 愛称	1985. 10 ~1986. 5	1986. 10 ~1987. 5	1987. 10 ~1988. 5	1988. 10 ~1989. 5	1989. 10 ~1990. 5	1990. 10 ~1991. 5
「クロチャン」	3/18~4/17 (30日間)	10/23~4/15 (174日間)	10/23~4/15 (175日間)	10/23~4/5 (165日間)	12/8~4/10 (122日間)	10/29~4/12 (166日間)
「カアサン」		10/23~4/15 (174日間)	10/23~4/15 (175日間)	10/23~4/5 (165日間)	12/8~4/10 (122日間)	10/29~4/12 (166日間)
「ブイ」			10/23~4/15 (175日間)	(行方不明)		
「ヤマ」			10/23~4/15 (175日間)	12/20~4/5 (116日間)	12/13~4/10 (118日間)	12/7~4/12 (127日間)
「オジサン」				10/23~4/3 (163日間)	(死亡)	
「ニタ」				10/23~4/5 (165日間)	11/16~2/11 (87日間)	12/15~3/8 (84日間)
「キボッチ」				10/23~4/5 (165日間)	11/2~3/2 (120日間)	(行方不明)
「ナガレ」				10/23~4/5 (165日間)	11/2~3/2 (120日間)	12/13~4/5 (114日間)
「ゲン」					12/8~4/10 (122日間)	10/29~4/12 (166日間)
「ニイチャン」						10/29~4/12 (166日間)
「マユ」						10/29~4/12 (166日間)
「ピンキー」						10/29~4/12 (166日間)

[注]

- ・「クロチャン」はアメリカコハクチョウ.
- ・「カアサン」はコハクチョウ.
- ・「ブイ」、「ヤマ」、「オジサン」、「ニタ」、「キボッチ」、「ナガレ」、「ゲン」、「ニイチャン」、「マユ」、「ピンキー」は亜種間雑種.

の大池で越冬した。同定は映像照合により確認された。加えて前年度の北上滞留期間中、給餌のさいに常に名前を呼んだというすりこみを行っていたが、この年の福島支部八木博夫妻との立ち会い観察では最初に名前を呼んだ時に、ただちに頭をあげて泳ぎよってきた敏感な反応からも、同一個体であることが確認された。

1990年12月11日、「チビクロ」は青森県上北郡下田町の間木堤に「ナガレ」と2羽で立ち寄ったことが青森支部の松林由範氏によって確認され、12月13日に前述のごとく北上川に飛来し、4月5日に「ナガレ」とつれだつて飛去した。この間の114日間をおもに北上川と新堤とで過ごし、しばしばこの両滞留地間を往来していた。常に2羽で行動し、採食のさいにやや離れるケースも見うけられたが、ほとんどは寄り添っているのが観察された(図2)。この2羽の挙動は、1986年10月~1987年5月までの「クロチャン」と「カアサン」がつがいを形成した時期の挙動によく似ており、親密度はより強いと見うけられた。

現在アメリカコハクチョウとコハクチョウとの亜種間交雑に関する報告は少なく(村瀬 1990)、その亜種間雑種がアメリカコハクチョウとつがいを形成したという報告はまったく見あたらないので、「ナガレ」と「チビクロ」とのつがい形成に持続性が認められれば、貴重な例といえる。

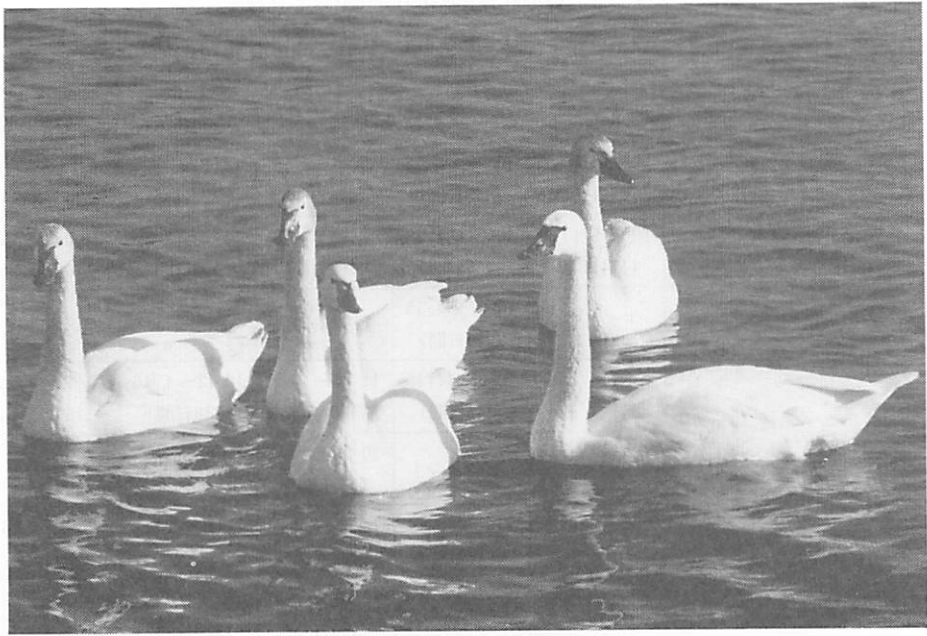


図1. 第4回子連れ渡来.

Fig. 1. The fourth visit of the family, 1990-1991.

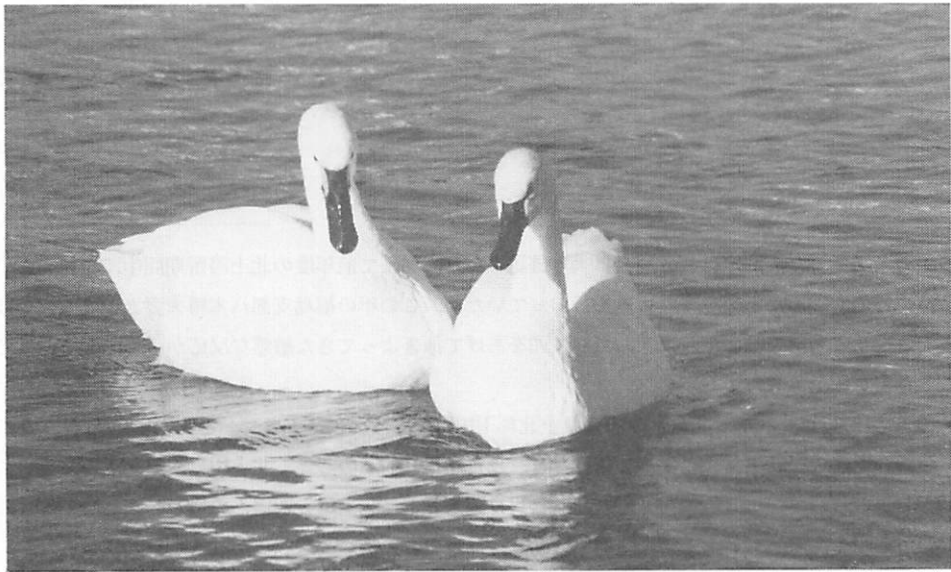


図2. 「ナガレ」と「チビクロ」.

Fig. 2. "Nagare" (*C. c. bewikii* × *C. c. columbianus*) and "Chibi-kuro" (*C. c. columbianus*).

表2. 北上に渡来したアメリカコハクチョウとその同族.

Table 2. Swans with the bill color pattern of *C. c. columbianus* in Kitakami.

1985. 10 ~1986. 5	1986. 10 ~1987. 5	1987. 10 ~1988. 5	1988. 10 ~1989. 5	1989. 10 ~1990. 5	1990. 10 ~1991. 5
「クロチャン」 アメコ成鳥 3/18~4/17	「クロチャン」 アメコ成鳥 10/23~4/15	「クロチャン」 アメコ成鳥 10/23~4/15	「クロチャン」 アメコ成鳥 10/23~4/5	「キボッチ」 雑種成鳥 11/2~3/2	「クロチャン」 アメコ成鳥 10/29~4/12
アメコ成鳥 4/8	アメコ成鳥 3/27	「ブイ」 雑種幼鳥 10/23~4/15	「オジサン」 雑種幼鳥 10/23~4/3	「ナガレ」 雑種成鳥 11/2~3/2	「ゲン」 雑種成鳥 10/29~4/12
アメコ成鳥 4/8		「ヤマ」 雑種幼鳥 10/23~4/15	「ニタ」 雑種幼鳥 10/23~4/5	「ニタ」 雑種成鳥 11/16~2/11	「ニイチャン」 雑種幼鳥 10/29~4/12
アメコ幼鳥 4/8			「キボッチ」 雑種幼鳥 10/23~4/5	「クロチャン」 アメコ成鳥 12/8~4/10	「マユ」 雑種幼鳥 10/29~4/12
アメコ幼鳥 4/8			「ナガレ」 雑種幼鳥 10/23~4/5	「ゲン」 雑種幼鳥 12/8~4/10	「ピンキー」 雑種幼鳥 10/29~4/12
			「ヤマ」 雑種成鳥 12/20~4/5	「ヤマ」 雑種成鳥 12/13~4/10	「ヤマ」 雑種成鳥 12/7~4/12
			「チビクロ」 アメコ成鳥 1/25~4/5	「アメコモドキ」 雑種成鳥 3/11~3/22	「ナガレ」 雑種成鳥 12/13~4/5
					「チビクロ」 アメコ成鳥 12/13~4/5
					「ニタ」 雑種成鳥 12/15~3/8
					「アメコモドキ」 雑種成鳥 3/23~3/24

[注]

- ・アメコはアメリカコハクチョウの略.
- ・「 」内の名称は愛称.
- ・月日は滞在期間.

[個体数総括]

シーズン	アメリカコハクチョウ		アメコ×コハク. 雑種		合計
	成鳥	幼鳥	成鳥	幼鳥	
1985/86	3	2			5
1986/87	2				2
1987/88	1			2	3
1988/89	2		1	4	7
1989/90	1		5	1	7
1990/91	2		5	3	10



図3. アメリカコハクチョウの嘴峰パターンをもつ個体（後方8羽）.

Fig. 3. Swans with the bill color pattern of *C. c. columbianus*.

北上におけるアメリカコハクチョウとその同族の渡来記録

日本野鳥の会野鳥記録委員会の野鳥情報によれば、アメリカコハクチョウについての記録は、1988年までは「アメリカコハクチョウ」と記載されており、1989年以降は「(アメリカ)コハクチョウ」と記載されている（日本野鳥の会野鳥記録委員会 1988-1990）。ちょうどこの時期からアメリカコハクチョウとコハクチョウとの亜種間雑種がしばしば報告されるようになった。「クロチャン」と「カアサン」の幼鳥のように、親鳥が明確な場合は生まれた幼鳥は雑種に違いないが、それらをアメリカコハクチョウと呼ぶべきかコハクチョウと呼ぶべきかは現在決まりがなく、一応雑種といわれる。

アメリカコハクチョウとコハクチョウとの識別は、嘴峰黄色斑の形状と体形にもとづいて行なわれることが多いが、体形ではアメリカコハクチョウの雌はコハクチョウとほとんど区別できず、識別はもっぱら嘴峰パターンでなされるのが実状である。「クロチャン」と「カアサン」との間に生まれた10羽の子の嘴峰パターンはすべてアメリカコハクチョウのそれであり、それぞれが単独で観察された場合は、アメリカコハクチョウとして記録される可能性が高い。

1986～1991年の間に北上で観察された、アメリカコハクチョウの嘴峰パターンをもつ個体の渡来状況を、表2にまとめた。この種の白鳥の今シーズンの渡来数は10羽におよび、日本では珍しい例といえる。

図3の15羽の白鳥のうち、後方の8羽がアメリカコハクチョウの嘴峰パターンをもっているが、そのうちの2羽がアメリカコハクチョウで、6羽はアメリカコハクチョウとコハクチョウとの亜種間雑種である。このような混群の識別とカウントをする場合、亜種間雑種に限って「(アメリカ)コハクチョウ」と表現することは、当面は理にかなっているかもしれない。

引用文献

- 村瀬美江. 1990. アメリカコハクチョウとコハクチョウのつがいおよび家族群の連続越冬記録.
Strix 9 : 213-217.
- 日本野鳥の会野鳥記録委員会. 1988. 野鳥情報・観察記録. Strix 7 : 305-308.
- 日本野鳥の会野鳥記録委員会. 1989. 野鳥情報. Strix 8 : 347-349.
- 日本野鳥の会野鳥記録委員会. 1990. 野鳥情報. Strix 9 : 265-268.

Wintering records of a "mated" pair of Bewick's and Whistling Swans,
Cygnus columbianus bewikii and *C. c. columbianus* in Kitakami, Iwate—Part II—

Yoshie Murase¹

A "mated" pair of Bewick's and Whistling Swans has been coming since 1987 to Kitakami-shi, Iwate Pref., Japan. They have visited with their offspring annually for four successive years, bringing two juveniles in 1987, four juveniles in 1988, one juvenile in 1989 and three juveniles in 1990. The Whistling Swan, named Kuro-chan, was observed at the same place during six continuous winters.

1. Tokiwadai 2-2-17, Kitakami-shi, Iwate 024